

イノベーション部門

産学官で創る食の地域ブランド！広がるじゅんかん育ち

上野台堆肥生産協同組合、秋田工業高等専門学校、秋田県



PRポイント！

上野台堆肥生産協同組合では、秋田県から下水処理場で発生する下水汚泥をいただき、その下水汚泥から肥料を生産し、地域の農家へ提供しています。下水汚泥肥料で育てた下水道発食材「じゅんかん育ち」は、清酒（やまとしづく）や漬物（いぶりがっこ）といった「地域ブランド食品」へと姿を変え、消費者に届けられています。下水汚泥の利活用により、農産物の品質と市場価値の向上に寄与しています。

また、更なる下水道資源の活用方策として、秋田工業高等専門学校が「下水処理水を活用した酒造好適米の栽培」に関する研究を行っており、今後、産学官で下水道資源による付加価値向上の取組みを推進してまいります。

Key Person



上野台堆肥生産協同組合
専務理事
山岡 和男

下水汚泥を発酵して生産した肥料は、“秋田県で生まれたコンポスト（堆肥）”という意味で「アキポスト」と名づけました。

アキポストには、作物の栽培に必要な窒素・リンなどがバランス良く配合されており、施肥することで土壌環境が良くなります。また、アキポストで育てた「じゅんかん育ち」は生育が良好で、「食味がよくなった」等、生産者や消費者から好評を得ています。

平成28年に開催された「BISTRO 下水道 in 秋田」の参加者の方々にも「じゅんかん育ち」を用いた「きりたんぼ」や「いぶりがっこ」などをご賞味いただき、大変好評でした。これからも秋田県の農業を下支えするアキポストの生産を実践していきます。